

伊豆沼・内沼上流域のオオクチバス駆除

ナマズのがっこう 三塚牧夫 瀬ヶ沼安寿

1. はじめに

伊豆沼・内沼の生物相が沼の水質や底質などの物理的環境の悪化やオオクチバスなど外来生物の影響により生物種の単純化と減少が顕著になっている。また、伊豆沼・内沼周辺水田でも水田を生息場所としているメダカやドジョウ等も減少してきています。

そこで、伊豆沼・内沼の豊かな自然の回復と周辺水田の生態系を回復するための活動を地域住民主体で行うことが重要であると考え、農業土木県職員有志及び伊豆沼周辺の農家、地域住民、土地改良区の職員、生態系の専門家、企業が集まり平成15年7月3日に「ナマズのがっこう」を結成しました。

活動目的を伊豆沼・内沼の自然環境と農業が共生できる自然生態系の復元と環境創造型農業を展開し、良好な自然生態系を保全することとし、①「小規模水田魚道の開発・遡上実験・普及活動」、②「ふゆみずたんぼ（冬期湛水水田）による無農薬・無化学肥料水稻栽培の取り組み」、③「田んぼの学校の開催（農作業体験・田んぼの生き物調査・子供の環境教育）」、④「伊豆沼・内沼上流域ため池のオオクチバス駆除活」、⑤「ゼニタナゴ・シナイモツゴ・メダカ・ニホンアカガエルの保全活動」、⑥「生き物の生息可能な排水路の工法（U型水路からV型水路）の検討」、⑦「ビオトープの造成」、⑧「湿地の保全や再生に対する支援」、⑨「水辺生態系の保全や復元活動に対する協働活動」を行っています。

2. 伊豆沼・内沼地域の概要

伊豆沼・内沼は宮城県北部仙北平野の水田地帯の中央に位置し、絶滅危惧種のゼニタナゴをはじめとした淡水魚類の生息地であります。

また、オオハクチョウやマガン等の多くの冬鳥たちの飛来地であり、釧路湿原に次ぐ日本で2番目の規模を持つ水鳥の生息地として、国際的に重要な湿地及びその動植物の保全を推進することを目的としたラムサール条約指定登録湿地（1985年）や国の天然記念物に指定されるなど、貴重な自然環境を有している地域であります。

しかし、1996年から移入種（外来種）であるオオクチバスが増加し在来種の小型魚類が補食されている結果、ゼニタナゴをはじめとするタナゴ類、メダカ、コイやフナ類の稚魚、仔魚が激減しています。

伊豆沼・内沼は下流で北上川に注ぐ迫川中流部の支流荒川の水系に属している。荒川は築館丘陵の東端に流域をもつ水系で、伊豆沼に至る流域は狭い。

荒川に合流する照越川や内沼に流入する八沢川、太田川及び両沼に直接流入する小河川や水路を合わせても伊豆沼・内沼流域は50km²にすぎない。

各河川の流域が狭いため、かんがい期には旱天が続くと用水不足になるため、小流域毎に、多くのため池を築造し、用水として利用しています。

そのため池にオオクチバスが密放流された結果、ヌカエビやゼニタナゴ等の小型魚類が姿を消し、農村の生態系にまで影響をおよぼしています。

「ナマズのがっこう」は、伊豆沼・内沼周辺の農村生態系の復元ため、2004年から

ため池の池干しによるオオクチバス駆除を始めました。

3. 2012年までの池干しによるオオクチバス駆除

環境省東北地方環境事務所の調査で、伊豆沼・内沼上流域には、大規模ため池が170ヶ所あり、34ヶ所にオオクチバスが生息している調査結果が報告されています。

その他にも、調査されていない小規模ため池が大規模ため池と同数があると推定されるので、大規模ため池の駆除を実施する際に隣接の小規模ため池の所在地の確認とオオクチバスの生息を確認しながら駆除活動を行っています。

さらに、伊豆沼・内沼に直接排水されている水田の農業排水路と排水機場遊水池の駆除も行っています。

駆除にあたっては、水系毎に上流部のため池から、下流の水田の農業排水路と排水機場遊水池までを一体的に駆除を行っています。

水系毎の駆除は、内沼に流入する、①八沢川、②太田川、伊豆沼に流入する、③照越川、④荒川の順で行っています。2012年末で八沢川は駆除を完了しました。

2012年末まで、大規模ため池34ヶ所の内、18ヶ所の駆除を完了しました。小規模ため池は12ヶ所の駆除を完了し、30ヶ所の駆除を完了しました。

表-1 伊豆沼・内沼集水域のため池とオオクチバスの生息ため池，駆除ため池数(平成2012年末まで)

河川名	荒川	照越川	八沢川	太田川	伊豆沼直接	計
大規模ため池	94	30	14	15	17	170
小規模ため池	—	—	—	—	—	—
計	94	30	14	15	17	170
大規模ため池バス生息ため池	14	8	4	6	2	34
小規模ため池バス生息ため池	2	2	3	1	4	12
計	16	10	7	7	6	46
駆除済 大規模ため池(H23まで)	3	3	3	5	1	15
駆除済 大規模ため池(H24)	—	2	1	—	—	3
小計	3	5	4	5	1	18
再放流されたため池	—	2	—	2	—	4
駆除済 小規模ため池(H23まで)	2	2	3	1	4	12
駆除済 小規模ため池(H24)	—	—	—	再(1)	—	再(1)
小計	2	2	3	1	4	12
計	5	7	7	6	5	30

*小規模ため池のヶ所数は調査中のため、駆除を行ったため池のヶ所のみ記載しています。

*2012年の調査で大規模ため池4ヶ所に再放流されているのを確認。

しかし、2012年の調査で、駆除したため池4ヶ所に再放流されたオオクチバスを確認しました。

4. 今後の活動について

大規模ため池34ヶ所の駆除を目標として活動を継続したいが資金や人員の確保等が困難になって来ているので、公的機関の資金援助や人的支援が必要であります。

また、外来種駆除は民間の団体だけでなく、公的機関が積極的に予算化して取り組む必要があると考えております。

平成16年より駆除活を初めて9年目になるが、地域住民は、オオクチバス駆除の必要性は理解してくれるが活動に積極的に参加するに状況にはなっていません。

地域の小学校、中学校、地域住民向けの外来種駆除広報パンフレットを作成し、駆除の必要性や駆除活動への参加を促していきたいと考えています。